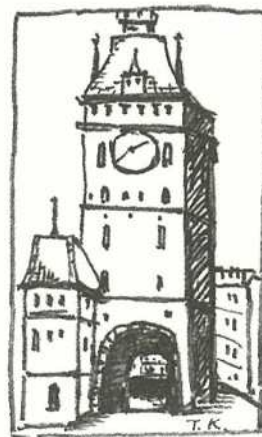


OMNIBUS

大阪医科大学図書館報 / 大阪医科大学附属看護専門学校図書室報

C O N T E N T S

古きを尋ねて新しきを知る〔大澤仲昭〕	2
夏の日々の図書館〔米田博〕	3
病院は誰のために—21世紀の医療環境—〔牧彰〕	4
出逢い〔城戸滝枝〕	5
皆さんに知っていただきたい詩〔佐野友香〕	6
BL inside web システムの導入について〔茂幾周治〕	7
他大学図書館訪問記(5)(和歌山県立医科大学附属図書館の巻)	10
書評「大学淘汰の時代」〔佐野浩一〕	11
「スタンダード腹部超音波診断」〔福田彰〕	12
図書館で複写できる理由〔松本玲子〕	13
本学教職員等著作寄贈	14
お知らせ	15
図書館業務日記	15
編集後記	16



古きを尋ねて新しきを知る

大澤 仲昭



現在本学では、6年一貫教育を目指した新しいカリキュラムの確立に向けて努力が続けられており、内科学の領域でも、実習中心の教育体制が検討されている。考えてみると、医学教育はどうあるべきかという問いかけは、常に古くて新しい問題であると言ってよいであろう。

ところで最近、自分の古い論文や総説の別刷を整理している際に、私が留学していた米国クリーブランドのWestern Reserve大学生理学教室（1961—1964）について、「Sayers教授とその研究室」というタイトルで紹介した文が目についた。ひさしぶりに読み返してみても、若い頃の自分の夢を思い出し感慨無量であったが、その中で、当時きわめて独特な教育体制をとるWestern Reserve大学の医学教育に触れているのに気がついた。そこで当時の記憶をたどりながら、私自身も関与した教育の経験を紹介したいと考える。

いくつかの新しい試みがなされていたが、私が加わった第一学年（Phase I）に対する教育の経験から述べると、その特色の一つとして、従来のように授業がDepartment単位で、解剖学、生理学、生化学などを個別に教えられるのではなく、一つのSubjectを中心に行われる点がある。例えば、内分泌系について教育する際には、このSubjectを中心として各教室から教員が集まり、委員会を作って各人の分担をきめ、そのSubjectについて集中して教える、すなわち、ある期間（約1ヶ月）は内分泌系に関する教育医学以外何も行われぬ。これにより授業の重複はさけられ、密度の高い教育が行われるとされた。また特徴的なことは、基礎医学の教育であるにもかかわらず、委員会のメンバーには臨床医学の教員が加わり、各項目の終わるごとに、臨床的意義を学生に検討させるようになっていた。

附表は私も関係した1963年度の内分泌系の教育の具体的なスケジュールの一部を示したものである。ご覧のように甲状腺、副腎皮質あるいは下垂体について、解剖、生理、生化学、組織学実習などが総合的にスケジュール化され、多くの内分泌系のテーマが組織立って、みっちり教え込まれるのがわかる。その中でLaboratory 1として「出血に対する内分泌系の反応」という実習が6回にわたり続いているが、小グループでイヌを用いて出血実験を行ない、その際に頸静脈血と副腎静脈血を採取して、それぞれバゾプレッシンと170HCS（コルチゾール）を測定するというもので、当時の研究の最新技術を学生に経験させるというものであった。

また週に3日は、半日自主学習となっており、多くの学生が図書館を使って勉強していた。医学部の図書館は古くてあまり大きくはなかったが、24時間開館しており、アルバイトの学生が、夜遅く居眠りしながら受付していたのをおぼえている。

この教育法がどの様な意義を持つかについては問題はなお多いのであるが、Sayers教授に、この教育法が果たしてどの位よいものであるかを尋ねたところ、教授は「私にもよくはわからないが、殆どの学生がこれを非常に喜んでいるところから見ても、よいのではなかろうか」という含蓄のある言葉であった。

本学においても学生のために本当に役立つ新しいカリキュラムの完成を心から祈っている。

（おおさわ・なかあき 第一内科学教授）

Western Reserve University School of Medicine, Phase I, Endocrines and Reproduction Schedule for Endocrines and Reproduction Committee			
Tuesday, April 9, 1963			
8:40-11:30	Clinical Science.		
11:40-12:30	Lecture.	Introduction to Endocrinology	(Dr.Sachs)
Wednesday, April 10, 1963			
8:40-9:30	Lecture.	Development and Structure of the Thyroid & Parathyroid Glands.	(Dr.Barr)
9:40-11:30	Lecture.	Thyroid Chemistry and Physiology.	(Dr.Sachs)
11:40-12:30	Laboratory 1.	Endocrine Response to Hemorrhage. Introduction and Organization.	(Dr.Sachs)
2:10-3:00	Lecture.	Neural and Hormonal Integration. Hypothalamus, General Survey.	(Dr.Sayers)
3:10-4:00	Lecture.	Parathyroid Chemistry and Physiology.	(Dr.Sachs)
4:10-6:00	Laboratory 2.	Histology of the Thyroid and Parathyroid Glands.	
Thursday April 11, 1963			
2:10-3:00	Lecture.	Chemistry of the Steroids.	(Dr. Hirschmann)
3:10-4:00	Lecture.	Neural and Hormonal Integration Hypothalamus, Temperature Regulation.	(Dr.Lindley)
4:10-5:00	Review Conference.	Thyroid and Parathyroid Histology.	(Dr.Barr)
5:10-6:00	Lecture.	Thyroid Hormones and Intermediary Metabolism	(Dr.Sachs)
Friday, April 12, 1963			
8:40-9:30	Lecture.	Metabolism of the Steroids.	(Dr.Hirschmann)
9:40-10:30	Lecture.	Structure of the Adrenal.	(Dr.Macintyre)
10:40-12:30	Laboratory 1.	Endocrine Response to Hemorrhage.(continued).	
Saturday, April 13, 1963			
8:40-10:30	Lecture.	Physiology of the Adrenal Cortex	(Dr.Sayers)
10:40-12:30	Laboratory 1.	(continued).	
Monday, April 22, 1963			
8:40-9:30	Lecture.	Metabolism of the Steroids.	(Dr.Hirschmann)
9:40-10:30	Review.	Thyroid.	(Dr.Sachs)
10:40-11:30	Lecture.	Structure of the Hypophysis.	(Dr.Macintyre)
11:40-12:30	Lecture.	Physiology and Chemistry of the Hypophysis.	(Dr.Sachs)
2:10-3:00	Lecture.	Metabolism of the Steroids.	(Dr.Hirschmann)
3:10-4:00	Clinical Correlation Conference.	Thyroid	(Dr.Levy)
4:10-6:00	Laboratory 3.	Histology of the Adrenal and Hypophysis.	
Tuesday, April 23, 1963			
8:40-11:30	Clinical Science		
11:40-12:30	Lecture.	Hypophysis(continued).	(Dr.Sachs)
Wednesday, April 24, 1963			
8:40-12:30	Laboratory 1.	(continued).	
2:10-6:00	Laboratory 1.	(continued).	
Thursday, April 25, 1963			
2:10-6:00	Laboratory 1.	(continued).	
Friday, April 26, 1963			
8:40-9:30	Lecture.	Hypophysis(continued).	(Dr.Sachs)
9:40-10:30	Review Conference.	Adrenal and Hypophysis Histology	(Dr.Macintyre)
10:40-11:30	Lecture.	Neural and Hormonal Regulation. Adeno-and Neuro Hypophysis.	(Dr. Sayers)
11:40-12:30	Lecture.	Regulation of the Secretion of Aldosterone.	(Dr.Farrell)
Saturday, April 27, 1963			
8:40-10:30	Lecture.	Embryology of the Reproductive Tract.	(Dr.Macintyre)
10:40-11:30	Clinical Correlation Conference and Review.	Adrenal.	(Dr.Travis)
11:40-12:30	Clinical Correlation Conference and Review.	Hypophysis.	(Dr.Duguid)

夏の日図書館

米田 博

最近自宅近くに市立コミュニティセンターができ、その中に図書館もオープンした。先日、どうにもならない暑い日の午後、涼みがてら図書館をのぞいてみた。本学の図書館も医学関連のものばかりでなく、様々な書籍や雑誌があり、インターネットにも簡単に接続できるようになっているが、この図書館もCD、ビデオ、それも比較的新しいものを借りることができ、レーザーディスクを見ることもでき、機内サービスでは敬遠されているような雑誌も置いている。子供たちは床に座り込み、大量の漫画に読みふけている。なんとも開けた図書館で、コンピュータも備わり、図書の検索ができるなど、図書館というよりも、今はやりのマルチメディア情報センター、とまでいうと大仰だが、それに近いものを目指しているのだろうか。

程良く冷房のきいた図書館のソファに座り、スポーツ新聞を読み、時折窓越しにどんよりと暑苦しい外を眺めているうち、もう30年以上前の中学時代、夏休みに友人と行った田舎の図書館を思い出した。この図書館は、地元の素封家が提供した立派な洋館のなかに、郷土資料館と共にあった。大正時代に建てられた石造りの重厚な外観で、鉄製の重々しい窓枠に曇った分厚いガラスがはめ込まれ、夏の太陽に鈍く光っていたのを覚えている。中はさすがに50年以上も経ち、木製の床はすり切れ、机も椅子もがたついていた。一階は書庫で、二階が閲覧室、閲覧室に続いて郷土資料館があった。夏休みに近所の友人と連れだって、毎日のように朝早くから勉強すると親に言っ



図書館集密書架 (BF)

はさすがに50年以上も経ち、木製の床はすり切れ、机も椅子もがたついていた。一階は書庫で、二階が閲覧室、閲覧室に続いて郷土資料館があった。夏休みに近所の友人と連れだって、毎日のように朝早くから勉強すると親に言っ

はさすがに50年以上も経ち、木製の床はすり切れ、机も椅子もがたついていた。一階は書庫で、二階が閲覧室、閲覧室に続いて郷土資料館があった。夏休みに近所の友人と連れだって、毎日のように朝早くから勉強すると親に言っ

はさすがに50年以上も経ち、木製の床はすり切れ、机も椅子もがたついていた。一階は書庫で、二階が閲覧室、閲覧室に続いて郷土資料館があった。夏休みに近所の友人と連れだって、毎日のように朝早くから勉強すると親に言っ

(よねだ・ひろし 神経精神医学教授)

病院は誰のために—21世紀の医療環境—

牧 彰

病院の設計は単に機能と技術の問題ではなく、精神の作業であり、〔理性・心・愛〕の問題として捉えなければなりません。「HOTEL」と「HOSPITAL」の語源であるラテン語の「HOSPES」は〔客をもてなす〕という意味ですが、日本の病院の現状はあまりにも〔客をもてなす〕ことからかけ離れています。「PATIENT」は英語で患者を指しますが、同時に「耐える・我慢する」という意味があり、迫りくる運命になすすべもなくじっと耐え忍ばねばならなかった患者の悲痛な叫びがその中に切実に込められています。「患者の権利憲章」を院内の人目に触れやすい場所に掲げて、患者の人権を最大限尊重しているアメリカの病院では、患者はもはや「PATIENT」ではなく、「CLIENT」と呼ばれつつあります。

日本においても、赤穂市民病院では、昨年4月より院長自ら率先して「患者様」とお呼びしています。当初はかなり戸惑いがあったのですが、1年半を経過してほぼ定着しているようです。病院もまた、サービス業であり、医療というステージの上ではあくまでも〔患者が主役である〕ことを再認識する上でも大切なことと云えます。大学病院の役割は、臨床・研究・教育に尽きますが、あくまでも臨床のための研究・教育であることをしっかりと心に銘記する必要があります。

日本の病院の高度先進医療機器は外国製にいまでも人気があるのですが、本場のアメリカ・ドイツを遥かに凌いで多く使われています。ところが、診療・検査部門に反して療養部門はあまりにもお粗末で、グローバル・スタンダード（国際基準）にほど遠いのが実状です。かつてライシャワー駐日アメリカ大使が東大病院に入院した時に、完全にマスコミを拒否し、お見舞も辞退した話はよく知られています。親日家の大使としては、日本を代表する東大病院でさえ、あまりにも侘しい療養環境であることを世界中に晒されることにより、日本のイメージダウンになることを恐れたのです。

最近、関西空港の開港に合わせて、泉南地区の公立病院（堺・岸和田・貝塚・泉佐野等）が次々と改築されました。新空港の対岸（外国）を見据えて、いづれも病棟の設備には目を見張るものがあります。病院のアメニティは、主に外来は「待ち時間の短縮」、病棟は「トイレの充実」にあると云えますが、すべての病室に専用のトイレが設けられました。このことは患者の早期回復・介助負担の軽減に役立つだけでなく、排泄行為を人に見られたくない、同室の隣人に迷惑をかけたくないという〔患者の基本的な人間としての尊厳〕の問題であると云えます。

病院は複合用途の施設であり、いわばコミュニティそのものです。また、それ故に「揺籠から墓場まで」の言葉どおり、「人生



〔患者は客である〕をコンセプトとした赤穂市民病院

の縮図」とも云えます。家庭の延長としての居住性を最重視し、機能とアメニティとの適正な均衡の上に、如何に「癒しの環境」を創造するかが大切です。奉仕の精神に則り、患者と医療従事者との目線を同一にして、真に病んだ身体に宿る心を励まし、生命の尊さを自覚させ、生きる勇気を培う「ホスピタリティ豊かな施設」が今こそ切に希求されています。

（まき・あきら 元日建設計社員、本学総合研究棟・本館図書館棟設計担当）

出 逢 い

城 戸 滝 枝

夏期休暇に入ると「学校訪問を希望しているのですが」という、現役高校生や予備校生からの問い合わせの回数が年々増えてきている。受話器の向こうで緊張している様子を肌で感じながら、日時の確認をして訪問日の出逢いを楽しみに待つ。

今年も夏期休暇中に第一看護学科では、50余名の学校訪問者があった。訪問者の対応は主として責任者が行き、手順としては、訪問者の質問内容・本校の教育課程についての説明と、学校・図書館・病院の案内である。

訪問者に、訪問の動機、質問内容、看護学校選択基準について聞くと概要は以下の通りであった。

〈訪問の動機〉

- ・受験校を決定するため
- ・平成11年度に受験を希望しているので、学校の場所や校内の環境、試験内容について具体的に知りたかった
- ・附属病院での一日看護婦体験を通して、ぜひこの病院で勤務したいと思った

〈質問内容〉

- ・教育方針
- ・カリキュラムの内容（学科・実習）
- ・国家試験の合格率
- ・卒業後の進路や就職率について などである。

〈看護婦学校の選択基準〉

- ・自宅から近いこと
- ・学習環境、設備がよいこと
- ・学校の雰囲気（第一印象やイメージ）

まず学校で質問内容に答え、学校内説明終了後、学生達が課外で講義や実習の予習・復習、レポート作成、グループワーク等で利用し、主体的に取り組める学習の場である図書館は、自信をもって案内している。

図書カードで入室し、新聞を読みくつろいでいる人、コピーをしている人、本や文献を探している人、自習をしている人等を視野に入れながら説明をする。二階から三階へと案内するにつれて、「きれい」「すごい」という感嘆の声が聞かれる。また、図書館で勉強していた看護学生や文献を探していた本校の卒業生が学校見学者に気付き、「いい学校よ、頑張って入学して来てね、待っているから」と笑顔で気軽に声をかけてくれる姿に、表情が和み、うれしそうであった。

すべての説明終了後に感想を聞くと、図書館は大きく設備も整っているので集中して学習することができる。学生時代より勤務している看護婦さん達の姿を身近に感じることで学校以外のことも学べる。学校見学により志望校を身近に感じることができ、これからの勉強の励みとして頑張りたい等、今回の見学を通して目的が達成されたことを感じる事ができた。

相田みつを氏の「にんげんだもの」の著書の中に、“そのときの出逢いが人生を根底から変えることがある。よき出逢いを”という言葉がある。学校訪問での一回の出逢いがその人にとってよい出逢いとなるよう、“今 ここ”という気持ちを忘れず、今後も一人一人との出逢いを大切にしていきたいと思っている。

(じょうど・たきえ 第一看護学科教務主任)

皆さんに知っていただきたい詩

佐野友香

『星とたんぼぼ』

青いお空の底ふかく、
海の小石のそのように、
夜がくるまで沈んでる、
昼のお星は眼にみえぬ。

見えぬけれどもあるんだよ、
見えぬものでもあるんだよ。

散ってすがれたたんぼぼの、
瓦のすきに、だァまって、
春のくるまでかくれてる、
つよいその根は眼にみえぬ。

見えぬけれどもあるんだよ、
見えぬものでもあるんだよ。

金子みすず

心温まる、かわいい詩だと思いませんか？金子みすずさんは明治36年、山口県長門市に生まれ、26歳の若さでこの世を去った女性です。彼女は日常目にするものになってその心を詩いました。ご飯に出てきた魚を見れば、「お米や牛は人に育てられるけど魚はなんの世話にもならない。なのに食べられてかわいそう」と思い、雪を見れば、「上の雪は寒かろう、下の雪は重かろう、中の雪は天も地も見えずにさみしかろう」と思いました。なんて豊かな感受性を持っていたのでしょうか。そんな金子みすずさんの詩の中で一番好きなのが上に書いた「星とたんぼぼ」、特に二節目なのです。

この詩と初めて出会ったのは小学校五年生の時でした。担任の先生がある日うすピンク色の大きな紙に書いて教室に張ってくれたのです。そのころは単にテンポのいい詩としか思っていなかったと思いますが、毎春たんぼぼに出会うたびにこの詩を思い出し、毎年その意味が違っていることに気がきます。今、私にはこんなふう聞こえます。

世界にはいろいろなものがあって、いろんな人がいて、その一つ一つ、一人一人は私には見えなくても存在しています。そんな単純で当り前のことをとても素敵に感じます。たんぼぼは寒い冬の間じっとして、春になると花を咲かせます。誰に言われたのでもなく、誰かのためにでもなく、たんぼぼがたんぼぼであるがゆえに咲きます。自分がたんぼぼであるということをたいへん大切にしているのです。私も私であるということを大切にしたいものです。きっとこの詩を読まれた皆さんも一人一人異なった印象を持たれたのではないのでしょうか？どう思われましたか？

童謡は子供達のもの、と決めつけてしまいがちですが、大人達のものでもあります。子供の頃読んだ詩をもう一度読んでみると感じ方が変わったことに気が付き面白いですし、大人になって初めて読む詩も充分楽しめるものです。（「星とたんぼぼ」は『金子みすず全集』（全三巻）JULA出版局や絵本などに載っています。）たまには童謡も読んでみてはいかがでしょうか？

（さの・ゆか 5回生）



BL inside web システムの導入について (1)

茂 幾 周 治

図書館では、来年度の外国雑誌の値上がり（約25%）のため、現在購入している外国雑誌を大幅にカットせざるを得ません。その結果、利用者の情報入手に多大な迷惑をおかけすることになります。そこで、一つの代替手段として、The British Library (BL)がWeb上で提供するデータベース検索とドキュメント・デリバリー（文献の配送）サービスを併せたサービスである、inside webシステムを導入する事になりました。

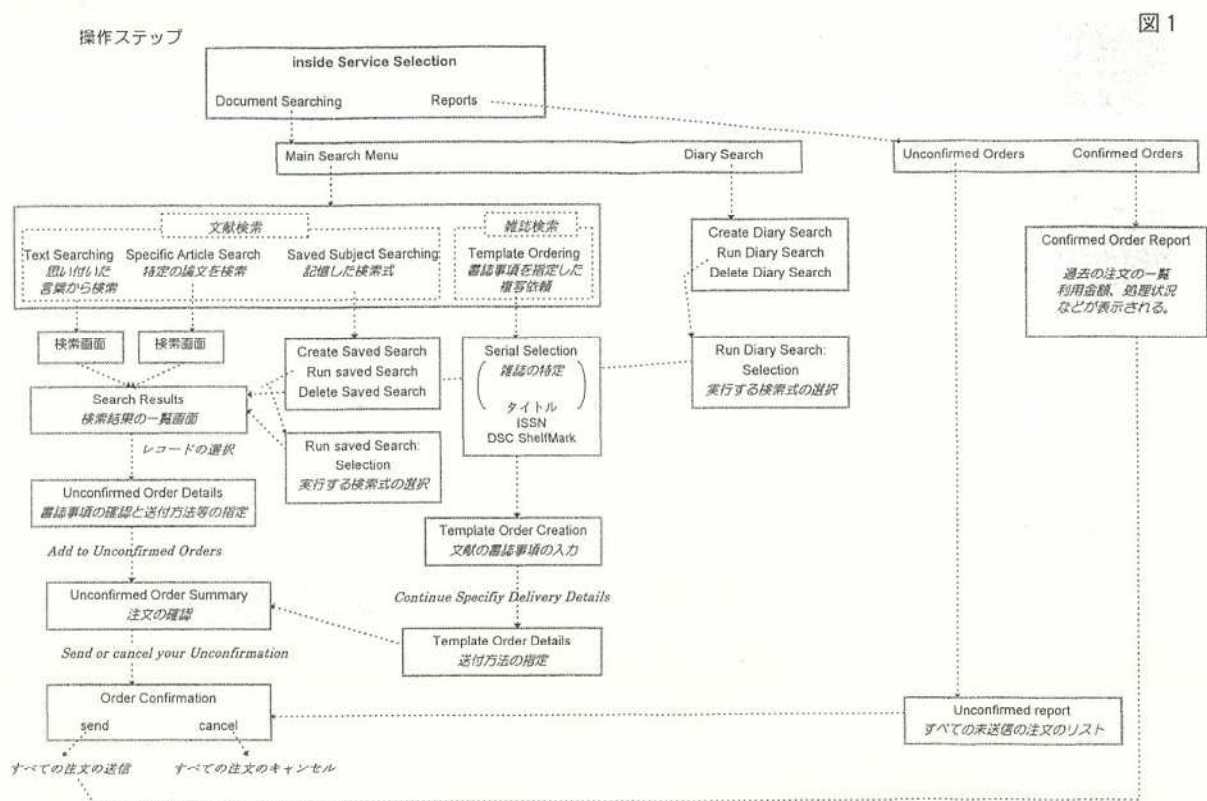
このシステムは、学術雑誌250,000タイトルをタイトルレベルまで検索でき、さらに、20,000タイトルの学術雑誌と16,000タイトルの会議録を書誌データレベルまで検索可能なものです。本学購入外国雑誌タイトルの殆どがカバーされています。

利用方法は、各教室にpasswordを配付して、教室の端末からインターネット経由で直接BLのファイルにaccessして必要な情報入手することになります。24時間いつでも、どこからでも利用可能となります。

利用できる情報は雑誌の目次情報、抄録のあるものはその抄録情報等が入手できます。もしfull textが必要な場合は、図書館に所蔵していない雑誌については、国内の所蔵館に文献依頼をして入手することになります。勿論、BLに直接文献依頼をすることは可能ですが、その場合は、一件につき1,400円以上の料金が掛かります。

inside webの操作ステップ（紀伊国屋書店提供）は図1のとおりです。

なお、正式にシステム導入が決定すれば、利用者のための説明会を開催する予定です。



ProQuest Directシステムの導入について（2）

図書館では、来年度の外国雑誌の値上がりに伴い、購入雑誌のカットをせざるを得ない状況ですが、情報入手の代替え措置として、図書館委員会で検討の結果、BLのinside webの導入と同時に、アメリカのUMI社が提供する、ProQuest Direct (PQD)システムを導入することになりました。

PQDシステムとは、UMI社が雑誌や新聞のフルイメージ、フルテキストをインターネットを經由して全文データベースを提供するものです。医学、薬学系で299タイトルが利用可能です。本学購入タイトルの内87タイトルがカバーされています。print版がどうしても必要なタイトル以外は、このシステムを利用して中止タイトルの情報を入手していただくことになります。利用方法は、学内の教室の端末からインターネット経由で、何時でも無制限に利用可能です。

以下に実際の検索の例を紹介します。

UMI社のProQuest DirectをクリックするとAccount numberとpasswordの入力画面が表示される（図2）。numberとpasswordを入力し、Connectをクリックすると、word又はphraseの入力画面が表示される（図3）。次にSearchをクリックすると、検索結果のリストが表示される（図4）。最後にリストの中から必要な論文をクリックするとFull Textが表示される（図5）。

このシステムの利用方法については、契約後に利用者に利用説明会を行う予定です。なお、実際の利用方法は、本学図書館のホームページからpassword等を入力しなくても、容易にaccess出来るよう計画中です。

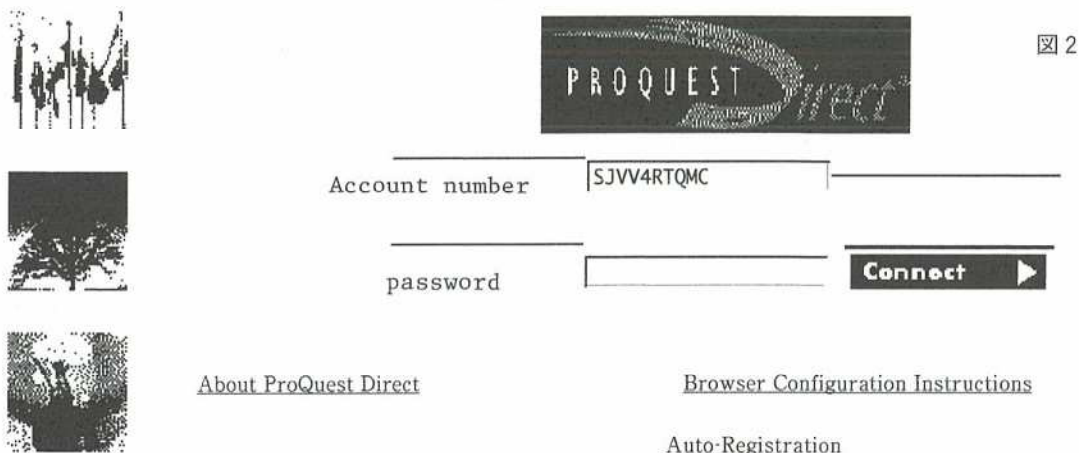


図2

This service contains copyrighted material of UMI Company and its licensors, which retain sole ownership of these materials. You may create printouts of materials retrieved through the service via on-line printing, off-line printing, facsimile, electronic mail, or from printers operated by UMI. All reproductions and distribution of such printouts and all downloading and electronic storage of materials retrieved through the service is subject to the Copyright Act of 1976, title 17 U.S.C. UMI, ProQuest Direct, InfoStore, and Text+Graphics are registered trademarks or trademarks of UMI Company.

図3

Search by word—basic

Enter a word or phrase.

aids

- Current (1996 - Present)
 Backfile

Search full text of Articles

BASIC ADVANCED































✓ Search

[Search Wizard](#)
[Subject List](#)
[Your Recent Searches](#)

Searching: ProQuest Medical Library
[Select Database](#)

Results list

At least 50 articles matched your search.

- 1.    [An interview with Neal Baer, MD, the doctor behind ER; JAMA Anonymous ; Sep 2, 1998](#)
- 2.    [Correspondence; The Lancet Anonymous ; Aug 29, 1998](#)
- 3.    [France and United Kingdom channel efforts to improve health services; JAMA Rebecca Voelker ; Aug 26, 1998](#)
- 4.    [The new WHO cabinet looks refreshingly different; British Medical Journal Adrea Mach ; Aug 22, 1998](#)
- 5.    [Correspondence; The Lancet Anonymous ; Aug 22, 1998](#)
- 6.    [International multicentre pooled analysis of late postnatal mother-to-child transmission of HIV-1 infection; The Lancet Valeriane Leroy ; Aug 22, 1998](#)
- 7.    [Japanese victims of discrimination against lepers sue government; The Lancet Jonathan Watts ; Aug 22, 1998](#)
- 8.    [Neuropathy complicating diffuse infiltrative lymphocytosis; The Lancet Richard W Price ; Aug 22, 1998](#)
- 9.    [On surgical tips and table manners; The Lancet Gabrielle Murphy ; Aug 22, 1998](#)
- 10.    [Direct allelic variation scanning of the yeast genome; Science Elizabeth A Winzeler ; Aug 21, 1998](#)

Next ▶

11-20

Submit this search against backfile View only Full Text

Article 1 of 50

NEXT ARTICLE ▶
TO KEYWORD ▶

EMAIL ARTICLE ▶
PRINT ARTICLE ▶

Mark article
Cite/Abstract
Full Text
Page Image
Publisher Info.

An interview with Neal Baer, MD, the doctor behind ER

JAMA ; Chicago; Sep 2, 1998; Anonymous;

Source (subtitle): The Journal of the American Medical Association

Volume: 280
Issue: 9
Start Page: 855
ISSN: 00987484

Full Text:

Copyright American Medical Association Sep 2, 1998

Q: How did you become involved in medicine and screenwriting?

A: Prior to medical school, I attended film school at the American Film Institute, and I was also a graduate student in sociology at Harvard, where I studied family policy. My writing and directing background include an ABC Afterschool Special, Private Affairs, and an episode of China Beach, as well as an unproduced movie for Paramount called The Lost Mariner, based on a story from Oliver Sacks' book, The Man Who Mistook His Wife for a Hat. When ER started 4 years ago, I had finished my third year of medical school at Harvard. I finished school by doing electives at UCLA and returning to Harvard during ER breaks to complete core rotations and graduated in 1996. Currently, I am an intern in pediatrics at Children's Hospital of Los Angeles as well as the supervising producer and writer of ER. You might wonder how I do both. I work as a resident during ER hiatuses, most recently in December of 1997 and March, April, and May of 1998. I'm not certain when I will complete my residency, but I do want to obtain my license and practice pediatrics.

Q: What do you do on the show?

A: Well, I write between 2 to 4 episodes a year, and I develop the medical stories for the other episodes. I also work as a producer, which means I supervise all the elements that go into making a television show: casting an episode; working with the art director, makeup and wardrobe designer; collaborating with the director; supervising the editing process for those episodes I write. I also handle all the mail that relates to medical issues, and I develop other projects that draw on ER to promote public health. One of those projects is Following ER, which takes a medical topic from a show each week and then develops a 2-minute segment that is aired on the local NBC affiliate. For example, we did a show that had a scene in which Greene [an attending physician] quits smoking. Later that night on the local news, a segment was offered that discussed how smokers can quit their habit.



正面玄関

和歌山県立医科大学は、和歌山城近くのキャンパスから、市内を南に下った紀三井寺の和歌川に臨むところに平成6年12月より新キャンパスの建設を開始し、本年9月にまず教養教育と基礎部門が移転し、附属図書館も9月7日に移転開館されました。現在、附属病院は、来年5月の開院に向け建設中で、臨床部門は旧キャンパスに残って診療中です。

図書館は、地上3階建ての建物の1・2階部分で、面積は約2,400m²です。3階は「生涯研修・地域医療センター」として、地域に開かれた情報基地として使用される予定です。

図書館入口には、BDSが設置され、1・2階吹き抜けで1面はガラス張りのホールとなっています。右手にゆったりとしたブラウジングコーナーと6席のAVブースが配置され、左手にカウンターと利用者用端末2台があります。カウンターに隣接して、情報機器室があり、医学中央雑誌・JCR検索性端末および利用者用端末、図書館サーバー用端末が設置されています。MEDLINEは、学内LANでの利用が可能です。

カウンターは、利用者側から立ったまま記入できるように高カウンターとなっています。また、WEB画面からOPACの検索および相互貸借の申込みと到着状況の確認（利用者IDとパスワードが必要）ができるようになっています。図書館に来館せずに教室等から直接申込み・確認を行えるので、利用者にとっても便利な機能です。

2階への階段左手に新着雑誌と参考図書の書架が、その奥に図書の書架および閲覧コーナーとして中央にすりガラスの仕切りを置いた平机と窓際に1人用のキャレルデスクが1列で設置されています。

閲覧コーナーの奥には、研究者用の個室が4室設けられ複写機は、プリペイドカード使用で2台置かれています。

2階部分は、閲覧コーナーが1階部分と同じ位置関係に配置され、和洋製本雑誌の1991年以降分が、開架書架に配架され、それ以前のは、書庫に2層の積層書架で年代を分けて配架されています。複写機は、1台置かれています。

2階にも研究者用個室4室が設けられ、12名収容のグループ閲覧室が1室設けられています。

川のほとりという立地から、図書館からの眺めもよく、落ち着いて利用できるようになっています。

本学図書館でも、現在ホームページにより情報の提供をおこなっていますが、次期図書館システムにおいては、OPACの検索を行う予定となっています。それに加えて今回提供されているように、学外文献の申込みについても、利用者の利便性ととも業務の簡素化も含めて検討していただくことが必要と思われます。

(福広)



メインカウンター



現在の社会変動は著しく、その変動の中で大学関係者は真摯に改革に取り組んでいる。私も微力ながら改革の一翼を担いたいと日々暮らしている。そのような中で、第一生理学教室の中張講師から紹介されて、出張時に新幹線の中で読んだ新書をご紹介したい。大学改革に熱心な大学関係者の中には既に熟読された方もあると思うが、多忙を極める未読の方々にご紹介したい。

本書はプロローグ「自動車産業と大学」にはじまり、第1章「大学衰退と倒産の妖怪」、第2章「大学の生成淘汰の歴史」、第3章「教授団革命と学生消費者主義の時代」、第4章「大学の生き残り競争」、第5章「競争と評価」、そしてエピローグ「大学制度存続の条件」で構成されて

いる。

冒頭では米国の自動車産業が日本の自動車産業との競争に敗れ衰退したことを紹介している。著者は米国の自動車産業が当時抱えていた問題と大学が抱えている問題の根本は同じであると述べ、また、当時の米国では現在の日本と同様に大学の淘汰の時代がやってくるのではないかとの「危機意識」があったことを紹介している。この部分では私が留学していた1985年から1987年当時「命が惜しければアメリカ車に乗るな」と言う米国人がいたことを思い出し、最近立ち直りはじめている米国の自動車産業界はかつて衰退の原因を十分に解析し、反省し、改革したのだらうと肯くことができた。

著者は中世の大学の起源から脈々と続いてきた大学制度の特異性・強靱性を多くのデータや歴史を紹介することによって明らかにしながらも、大学制度の問題点を掘り起こしている。著者は米国の大学は「危機」を脱して生き残ってきたというよりも「危機意識」をもって問題を明らかにし、解決してきたことが生き残りに成功した理由であるとしている。現在の明日をも危ぶまれる危機に瀕してはいない大学関係者でも「危機意識」を持っている。そのような大学においては、現在明らかにされつつある問題点の解決の糸口を探る好機であると肯きながら、本書に引き込まれていったところで東京駅に到着してしまった。

しかし、東京駅からお茶の水に着くまでの間に、米国と日本では高等教育制度が根本的に違うのではないか、著者の問題点の指摘は米国でのみ通じるのではないかとの疑問が生じた。宿に着いてシャワーを浴び、読を進めた。否、著者はこの点にも解析を加えていた。日本の高等教育機関は、入学後手間のかからない学生を学力選抜し、後は学生の力量に任せて、入学前に得られなかった余裕のある生活を享受させていることを示し、米国のそれとの違いを明快に述べた上で、日本の大学が本来の自治を守り、生き残って行くためには、その大学の理念を再確認あるいは再検討する事の必要性を著者は説いている。大学の理念のもとに充実した教育的付加価値を教授することが、大学の生き残りの道ではないかと感じさせられた。

また、scrap and buildの時代のこと、大学が生き残ったとしても必ず社会が大学を評価する時がくるはずである。著者はこの評価に関して、「大学評価が社会の必要不可欠の要請だとしたら、それを避けては大学は存在し得なくなる。それでは誰が大学を評価するのか。今明らかなことは、ボイヤー

がいうとおり大学が自ら自己を適切に評価する理論と方法を開発し、その評価の結果を社会に納得させることができない場合には、評価のイニシャティブは大学以外の評価者の手に渡ってしまうであろうという一事である。…」としている。現在行われている研究や診療だけを対象とした自己点検・自己評価が果たして社会を納得させるだけのものであるのか、自己防衛・自己満足に終わっていないか?、教育に関する自己点検や自己評価は必要ないのか?、反省しなければならないと感じさせられた。

総じて、本書は私どもが現在抱えている問題を明らかにするために有益な示唆を与えてくれる書である。最後に本学の改革を考えるための一助にするため、著者のエピローグの一部を引用する。「…学生獲得競争が、大学間の質的充実や教育の個性化を通じて行われるのなら高等教育の新しい展開を促すという建設的なものになり得るだろう。しかし、学生の欲求に媚びて、学生集めのために教授陣の質やカリキュラムの充実をさておいてひたすら人気のある学部学科の新しい増設のみに奔走し、いたずらに受験科目を少なくして受験者増を狙い、学生に正当な学習を要求したり厳しい訓練を施すのを控えたり、入学の水準の引き下げや履修要件の緩和をもっぱらとするならば、大学は機関としての使命を自ら放棄することになるだろう。」

(さの・こういち 微生物学教授)

「スタンダード 腹部超音波診断」

森秀明 著 診断と治療社 1996年

福田 彰



近年の画像診断学の進歩は目覚ましいものがあるが、なかでも腹部超音波検査は、非侵襲的で繰り返し手軽に施行でき、リアルタイムに状況が把握できるので、今日の臨床において、必須の検査法となっている。臨床に携わる方々に、広く普及が望まれる反面、中途半端な技術や知識はかえって危険でもある。特に腹部領域の場合では、計測に留まらず、その診断に重きが置かれ、悪性疾患などの早期発見の面からも、しっかりと修練を積む必要がある。

超音波検査を学び始める当初は、誰でも経験することであるが、正常か異常かの判別に苦労し、各種疾患の特徴像やサインなどをみるにつけ、熟達への道はとても遠く感じるものである。しかし、経験を重ねれば、自分の目と手が触端子と一体になり、透過して体の中を自由に視診し触診している感じまでに到達することも可能となる。超音波画像の描出技術と正確な診断には、なにより経験をつむ事が必要であり、初学者にとっては、適切な指導書に出会うことも重要であろう。

超音波検査に関連した実習書や参考書は、数多く出版されてきたが、本書「スタンダード 腹部超音波診断」には、これまでにはない幾つの特徴が伺える。まず、本書は総論と各論で構成されているが、全編を通じて、著者自身が単独執筆しているため、捉え方が一貫していて、とても理解しやすい。総論では、超音波の原理と実際、臓器別の解剖と走査法が述べられている。超音波検査を修得する上での基礎的な知識が、簡潔に整理されており、なじみやすい内容である。各論では、肝、胆、膵

をはじめとした腹部臓器の各症例ごとに、超音波のポイント、概念、画像所見とシェーマが解説され、適切な表や図も引用されている。読者は、その症例毎に、整理しまとめることが可能である。掲載された超音波画像は、著者自身が選んだもので、その質・量を考えても、著者の超音波検査における豊富な経験と高い技量が伺われる。各論のなかでも、腎・尿路系、膀胱・尿管や前立腺の項は、一般の腹部超音波関係の類書ではみられない程の多くの症例が示されており、泌尿器科系の超音波検査の面での応用情報を与えてくれる。また、脈管・消化管の項も同様に、類書にない多様な症例が取り上げられている。さらに、腹部外傷、消化管穿孔、気胸など救急医療分野での超音波診断も、豊富に掲載されている。これらは、本書が、実際に第一線で臨床に携わる実地医によって書かれた特徴がよくでているところである。多少なりとも超音波検査に関して自負のある方々にとっても、大いに役立つに違いない。さらに、巻末に整理された超音波用語やサイン、あるいは引用文献の豊富さも貴重である。

このように、本書は、熟練された臨床実施医の視点から、腹部領域の超音波検査におけるスタンダードな基礎と臨床がもれなく網羅されており、これまでの類書にはみられない、充実した内容に仕上がっている。これから超音波検査を学ぼうとする方々にとっての適切な指導書のみならず、相当習熟した方々にとっても十分に満足いく、是非お薦めしたい一冊である。

尚、本書での超音波画像は、Bモード画像を中心に提示してある。近年、超音波検査の分野においては、ドップラーによる血流解析や三次元画像など、新しい分野が注目を集め、応用範囲が広がりつつある。しかし、やはり超音波検査の本来の目的は、Bモード画像による検査・診断がまずありきであって、特に初学者は流行にのみ目をやらず、しっかりとした実力を身につけて載せたいと願う次第である。

(ふくだ・あきら 第一内科学助手)

図書館で複製できる^{わけ}理由

松本玲子

1998年8月26日から28日の三日間、文化庁主催の『平成10年度図書館等職員著作権実務講習会』に参加しました。講義は、著作権とは何かという基本的な事柄から始まり、著作者の権利、著作権の制限・保護期間、さらに図書館資料の複製へと進みました。著作権関係法令と照らし合わせながらの解説でしたので、日頃無意識のうちに行っている業務の理由付けができたように思いました。たくさん内容でしたが、ここでは、図書館と関係の深い図書館資料の複製（複製、コピーのこと）について、特に学生の皆さんに理解していただきたく、お話することにします。

はじめに著作権ということばですが、著作物（小説、音楽、美術、映画、コンピューター・プログラム等）を創作した者、つまり著作者に認められている権利のことをいいます。この著作者の権利には、A.人格的利益を保護する著作者人格権と、B.財産的利益を保護する著作権（＝財産権）の二つがあります。著作物を無断で改変されないように保護されているのは、Aの著作者人格権に当たります。Bの財産権には、レストラン等で流れているBGMのように公衆に対して送信する権利（＝公衆送信権）や、複製権と呼ばれる著作物を形のあるものに再生することに関する権利などがあります。

また、著作者の権利は法律によって保護されており、著作物を利用したい場合は、著作権者（著作権を所有するもの）に許諾を受け、必要に応じて使用料を支払ったりしなければなりません。けれども利用の度に手続きを取らなければならないのでは、教育や文化の発展の妨げになります。そこで著作権法では、著作権者に逐次許諾を得ること無く利用できるように、利用者への配慮が成されています。このうちの一つが図書館等における複製で、第31条で定められています。これによって、法律で認められた図書館（公共図書館や大学図書館等を指し、小・中・高等学校の図書館は含まれません）に限って、一定の条件の下に利用者へ提供するための複製、あるいは保存のための複製等が行えるのです。もう少し細かく言いますと、図書館は、利用者の求めに応じて著作物の一部分の複製物を一人に付き一部提供する場合、著作権者の許諾無く複製できるということです。それなら、セルフサービスのコピーは著作権を侵害しているのか？いいえ、安心してください。原則は複製できる資格のある図書館員（またはそれに代わる者）が行うこととなりますが、その者のチェックのもと、正しく行えば大丈夫です。当然のことのように行っている複製ですが、きちんと規則があるのです。複製は、調査・研究の目的のみに認められている行為です。また、図書館内で複製できるのは図書館資料に限られます。図書館の資料といえども一冊をすべて複製することは違反です。ですから、ルールを守って目的外に使うことのないようにしましょう。

情報化社会といわれて久しい今日、著作物を作ったり、他人の著作物を利用するという行為はますます増加するといわれています。同様に著作権法を正しく理解することも今まで以上に重要になってくるでしょう。“著作権は、よりよいものを創造するためにある”という講師のお言葉がありました。改めて図書館職員として常に著作権を意識しなければと思いました。

なお、大阪医科大学図書館・大阪医科大学附属看護専門学校図書室には『著作権法ハンドブック』・『平成10年度著作権法令集』等がありますので、参考になさってください。

参考資料：『著作権法入門—平成10年度版』著作権法令研究会

(まつもと・れいこ 看護専門学校図書室)



本学教職員等著作寄贈

植木 實（産婦人科学） 実地臨床医のためのコルコスコピー入門と応用／
新訂第2版 植木 實 著 1998

山本 隆一（医療情報部） 一步進んだMacintosh.5
医学インターネットⅡ／山本隆一他 著 1998

植林 勇（放射線医学） 画像診断マニュアル／植林 勇他 編 1998



1. 図書館カードの使用について

1) 図書館カードは、記名本人に限り使用できます。

他人のカードを借りたり、他人にカードを貸したりすることは、おやめください。

カードは、常にお持ちいただきたいのですが、カードを忘れた場合は、入口で申し出ていただければ、入館していただけます。

2) 短期の実習生等の方の図書館カード

教室等に、短期間の実習等で来られる方で、図書館の利用を希望される方がありましたら、受入先の教室等から図書館カウンターまでお申し出ください。

2. グループ学習室、研究個室に情報コンセントを増設

去る9月16日に図書館本館のグループ学習室、研究個室の各室に、情報コンセントを増設しました。これにより利用者は、各室にノートパソコンを持ち込んで、学内LANに接続し、インターネットの利用ができます。これまではグループ学習室、研究個室にそれぞれ一か所しか情報コンセントが有りませんでした。これからは各室から利用可能となりました。

学内LANの利用者登録をされている方は、教育、研究、学習等に大いに利用してください。

3. さわらぎ分室に新書庫完成のお知らせ

長年にわたって、さわらぎ分室の懸案であった資料保存スペースの問題が、この夏やっと解決しました。主に雑誌のバックナンバーを収容している従来の書庫以外に、ボイラー室を改修して約3,000冊収容できる新書庫が完成したからです。

従来の書庫には、1993年までの和・洋雑誌約4,400冊、新書庫には、1994年からの和・洋雑誌約1,130冊を配架しました。新書庫は従来の書庫より分室から近いので、新しい年代のものを集めました。

なにおん旧ボイラー室を半分に区切った書庫で、書架と書架の間が狭すぎたり、湿気対策などの課題がありますが、スペースの確保が出来たことは喜ばしいことです。その上、以前より利用しやすいと利用者には好評です。興味のある方は一度おいで下さい、お待ちしております。

さわらぎキャンパスの教職員のみなさまには配架作業および、それ以前の準備で大変お世話になりました。心より御礼申し上げます。

(さわらぎ分室)

4. 看護専門学校図書室

新規受入雑誌

ヘルスカウンセリング	1 (1998) +
日本看護研究学会雑誌	21 (1998) +

図書館業務日誌

5月

- 14日(木) UMI社ProQuest Directデモ (於、図書館会議室)
- 21日(木)～22日(金) 日本医学図書館協会総会 (於、自治医科大学)
- 26日(火) 次期図書館システム打合せ会 (於、図書館会議室)
- 27日(水)～28日(木) 図書館情報検索実習 (4回生) (於、図書館)
- 27日(水) ユサコ(株)セミナーに館員参加 (於、千里ライフサイエンスセンター)
- 28日(木) 紀伊国屋書店(株)BLDSC (inside web)講習会に館員参加 (於、千里ライフサイエンスセンター)

6月

- 3日(水) 医学図書館員基礎研修会第4回実行委員会 (於、滋賀医科大学)
- 12日(金) 日本医学図書館協会理事会 (於、本学図書館会議室)
- 12日(金) 館報第11号発行
- 15日(月) Silver Platterユーザー会に館員参加 (於、梅田スカイビル)
- 18日(木) 日本医学図書館協会資料保存委員会 (於、本学図書館会議室)
- 23日(火) 次期図書館システム打合せ会 (於、図書館会議室)
- 25日(木) 平成10年度第2回図書館合同運営委員会 (於、図書館会議室)
- 26日(金) 日本医学図書館協会企画・調査委員会

(於、滋賀医科大学)

- 29日(月) 大阪薬科大学図書館館員が見学来館 (二名)

7月

- 3日(金) 近畿地区医学図書館協議会例会 (於、兵庫医科大学)
- 9日(木) 館長選挙規程検討委員会 (第1回) (於、図書館会議室)
- 13日(月) 日本医学図書館協会総務会 (於、協会中央事務局)
- 16日(木) BLDSC inside webデモ (於、図書館会議室)
- 23日(木) 平成10年度第3回図書館合同運営委員会 (於、図書館会議室)
- 29日(水) 次期図書館システム打合せ会 (於、図書館会議室)
- 30日(木) 医学図書館員基礎研修会実行委員会 (於、滋賀医科大学)

8月

- 5日(水)～7日(金) 第5回医学図書館員基礎研修会 (於、滋賀医科大学)
- 10日(月) 次期図書館システム打合せ会 (於、図書館会議室)
- 11日(火) 書庫増設に伴うさわらぎ分室の雑誌移動作業
- 25日(火) 次期図書館システム打合せ会 (於、図書館会議室)
- 26日(水)～28日(金) 平成10年度著作権講習会に館員参加 (京都大学薬学部)

編 集 後 記

今回の館報12号は、秋季号として企画いたしました。トップ記事は大澤教授に、また米田教授と牧氏(特別投稿)には、エッセイを執筆していただきました。その他多数の方に執筆していただき、有り難うございました。シリーズの他大学図書館訪問記は、今年9月7日オープンしたばかりの和歌山県立医科大学附属図書館を訪問させていただきました。表紙のカットは恒例により北村達郎氏にお願いしました。皆様からの投稿記事を歓迎いたします。また、OMNIBUSに対するご意見もお寄せください。(茂幾)

OMNIBUS「大阪医科大学図書館報／大阪医科大学附属看護専門学校図書室報」

No.12 1998年10月16日 発行

編集・発行 大阪医科大学図書館

〒569-8686 大阪府高槻市大学町2-7

TEL (0726) 83-1221 (代)

(内線2799, 2621)

印刷 大日本印刷株式会社